

2024年度

作業療法学科 3 学年  
教育計画

関東リハビリテーション専門学校

## 2024年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : OT研究法 I

担当講師名 : 板倉 麻紀

単 位 : 2 単 位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 作業療法研究法 (医歯薬出版)・医療統計解析 (出版社) : なし  
使いこなし実践ガイド (羊土社) (出版社)

教育目標 【 到達目標 】 : 作業療法研究で用いられる各種統計解析の手法を、テーマに応じて

選択できるようになる。

## 【講義概要】

ヒトを直接の対象とした研究におけるパラメトリック・ノンパラメトリックの各解析手法を学習する。

本講義では卒前教育として量的研究のみを扱う。

回数	項 目	内 容
1	研究の準備	研究疑問から発表までの研究課程を学ぶ。
2	研究の準備	仮説検証の基礎や手順について学ぶ。
3	研究と倫理	ヘルシンキ宣言の成り立ちと内容を学び、研究倫理の重要性を理解する。
4	研究と倫理	ヘルシンキ宣言の成り立ちと内容を学び、研究倫理の重要性を理解する。
5	解析手法	量的研究の枠組みを学び、エビデンスレベル・信頼性・妥当性を理解する。
6	解析手法	調査票や質問紙の作成方法を学ぶ。
7	演習	自身のPCにRをインストールする。
8	演習	R言語の基礎と基本操作に慣れる。
9	解析手法各論	2群間・3群間の差の検定の手法を学ぶ。
10	解析手法各論	相関分析・因子分析・主成分分析の原理と解釈について学ぶ。
11	解析手法各論	$\chi$ 二乗検定の手法を学ぶ。
12	解析手法各論	パラメトリック/ノンパラメトリックとサンプルサイズについて学ぶ。
13	研究のテーマと解析手法	作業療法の臨床研究の実例をもとに、統計解析および解析ツールの 選び方を学習する。
14	研究のテーマと解析手法	
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 windows10以降、macOS10.14+以降のパソコンを用意すること。

## 2024年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : OT研究法Ⅱ

担当講師名 : 板倉 麻紀

単 位 : 2 単 位 教育時間 : 60 時間

教科書 : 作業療法研究法（医歯薬出版）・医療統計解析 参考書 :  
(出版社) : 使いこなし実践ガイド（羊土社） (出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 研究計画書と倫理審査申請書を作成できるようになることを目指す。

## 【講義概要】

研究のための情報収集の方法は日々変化し続けている。今年度は、オンラインデータベースを中心とした文献検索を行い、研究計画書と倫理審査申請書を作成する。

回数	項 目	内 容
1	導入	研究全体の流れを学ぶ。
2	課題についての詳細	研究計画書と倫理審査申請書の記載方法について学ぶ。
3	文献検索	各種オンラインデータベースの利用方法を学習する。
4	文献検索	
5	文献研究	オンラインデータベースを使用して、自身の研究テーマに関する先行研究（全文または要旨）を入手する。 少なくとも1本の英文を含む5本の先行研究をレビューし、Excel形式でグーグルドライブにアップロードする。
6	文献研究	
7	文献研究	
8	文献研究	
9	文献研究まとめ	アップロードされた文献レビューの閲覧会を行う。
10	研究疑問と倫理	自身の研究疑問についてプレゼンテーション資料を作成する。
11	研究疑問と倫理	倫理面・解析面の両方の視点から実現性を検討する。
12	研究疑問から研究テーマへ	研究疑問のプレゼンテーションを通じて
13	研究疑問から研究テーマへ	臨床倫理・研究倫理を確認し、実現可能なテーマへと発展させる。
14	図書館の利用	居住地の公立図書館や国立国会図書館の機能について調べる。
15	図書館の利用	自身の研究テーマに関する先行文献を、実際に図書館のサービスを使用して入手する。各図書館の開館日時に合わせて行うが、感染症対策のため内容を変更する可能性がある。 詳細については授業内で説明する。
16	図書館の利用	
17	図書館の利用	
18	図書館の利用	
19	研究計画書と倫理申請書	ヒトを直接の対象とした作業療法研究についての研究計画書と
20	研究計画書と倫理申請書	倫理審査申請書を作成する。

2 1	研究計画書と倫理申請書	書式や作成手順などは、授業内で別途説明する。 適宜、担当教員の指導を受けながら作成を進めること。	
2 2	研究計画書と倫理申請書		
2 3	研究計画書と倫理申請書		
2 4	研究計画書と倫理申請書		
2 5	研究計画書と倫理申請書		
2 6	研究計画書と倫理申請書		
2 7	研究計画書と倫理申請書		
2 8	研究計画書と倫理申請書		
2 9	まとめ		総合確認
3 0	まとめ		総合確認
<p><b>【成績評価方法】</b> 提出物の内容により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。</p>			
<p><b>【授業の方法・形式と教員紹介】</b> 文献レビュー・研究計画書・倫理審査申請書の作成を行うので、自身が随時使用できるパソコン（付随するアプリケーションを含む）を用意すること。</p>			

## 2024年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : 地域包括ケア特論

担当講師名 : 花宮 豊

単 位 : 2 単 位 教育時間 : 30 時間

教科書 (出版社) : 地域包括ケアにおけるPT・OTの役割 (文光堂) 参考書 (出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 地域包括ケアシステムの概要を理解する。

【講義概要】 地域包括ケアシステムの課題解決を試みる。

地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割を検討する。

(グループワーク中心)

回数	項 目	内 容
1	オリエンテーション	授業概要、「地域包括システム」とは？
2	地域包括ケアシステム	地域包支援センターの役割
3	〃	地域ケア会議
4	〃	介護予防
5	地域包括ケアシステム課題検討	演習（地域包括ケアシステムの課題調査）
6	〃	〃
7	〃	グループワーク（課題発表）
8	〃	〃
9	〃	グループワーク（課題解決の検討）
10	〃	〃
11	〃	グループワーク（課題解決発表）
12	〃	〃
13	〃	グループワーク（作業療法士の役割の検討）
14	〃	〃
15	試験	

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義、グループワークなど

## 2024年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : OT評価学(OT総合I)

担当講師名 : OT教員(笹野)

単 位 : 3 単 位 教育時間 : 45 時間

教科書  
(出版社) : なし参考書  
(出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 領域・疾患ごとの作業療法評価の目的と手順について、演習を含めた総合的学習を行い習熟度を高める。

## 【講義概要】

領域ごとの疾患別症例検討。評価計画、問題点抽出、目標設定、治療計画についてグループ学習を含めた課題演習。

回数	項 目	内 容
1	身体障害領域	脳血管疾患の症例検討。評価計画。
2	身体障害領域	脳血管疾患の症例検討。評価計画。
3	身体障害領域	脳血管疾患の症例検討。問題点の抽出と目標設定
4	身体障害領域	脳血管疾患の症例検討。問題点の抽出と目標設定
5	身体障害領域	脳血管疾患の症例検討。治療計画。
6	身体障害領域	脳血管疾患の症例検討。治療計画。
7	身体障害領域	パーキンソン病の症例検討。評価計画。
8	身体障害領域	パーキンソン病の症例検討。評価計画。
9	精神障害領域	統合失調症の症例検討。治療計画
10	精神障害領域	統合失調症の症例検討。治療計画
11	身体障害領域	パーキンソン病の症例検討。問題点の抽出と目標設定。
12	身体障害領域	パーキンソン病の症例検討。問題点の抽出と目標設定。
13	身体障害領域	パーキンソン病の症例検討。治療計画。
14	身体障害領域	パーキンソン病の症例検討。治療計画。
15	身体障害領域	認知症患者の症例検討
16	身体障害領域	認知症患者の症例検討
17	精神障害領域	気分障害の症例検討。治療計画
18	精神障害領域	気分障害の症例検討。治療計画
19	総合演習	
20	総合演習	

2 1	総合演習	
2 2	総合演習	
2 3	まとめ	総合確認
<b>【成績評価方法】</b> 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
<b>【授業の方法・形式と教員紹介】</b>		

## 2024年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : OT治療学13(義肢装具学)

担当講師名 : 板倉 麻紀

単 位 : 2 単 位 教育時間 : 45 時間

教科書 : 作業療法学 コールト・マスター・テキスト 義肢装具学 (出版社) : (メジカルビュー社) 参考書 : (出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 義肢装具の基礎を学び、種類・適応疾患・正しい使用方法を理解する。

【講義概要】 義手と上肢装具に関してはチェックアウトの手段も習得する。

スプリント実習では最も基本的なスプリントの製作実習を行い、製作の一連の流れや対象者への安全確認も理解する。

回数	項 目	内 容
1	切断概論・義手の種類	切断原因・断端長による呼称・義手の分類のしかたについて学ぶ。
2	義手	上腕義手の構造・パーツ・機能的特徴と使用方法を学ぶ。
3	義手	前腕義手の構造・パーツ・機能的特徴と使用方法を学ぶ。
4	義手	筋電義手の構造・パーツ・機能的特徴と使用方法を学ぶ。
5	義手のチェックアウト	義手がユーザに適しているかチェックする方法を学ぶ。
6	義手のチェックアウト	義手がユーザに適しているかチェックする方法を学ぶ。
7	義手とADL	義手を使用したADL・IADLの様子を学ぶ。
8	義足	義足の構造・パーツ・機能的特徴と使用方法を学ぶ。
9	下肢装具	疾患別・障害別に、下肢装具の用途や装着時間や着脱方法の
10	下肢装具	指導法などを学ぶ。
11	上肢装具	疾患別・障害別に、上肢装具の用途や装着時間や着脱方法の
12	上肢装具	指導法などを学ぶ。
13	体幹装具	各種体幹装具の特徴を学ぶ。
14	各種歩行補助具の使用法	杖・車椅子・歩行器の構造と特徴を学ぶ。
15	各種歩行補助具の使用法	歩行補助具のサイズなどの調整方法を学び、
16	各種歩行補助具の使用法	校内において使用体験を行う。
17	スプリント	主に手関節・手指に用いるスプリントについて学ぶ。
18	スプリント	主に手関節・手指に用いるスプリントについて学ぶ。
19	スプリント製作実習	スプリントの分類・トレース法と直接法などの基本的な技法を学ぶ。
20	スプリント製作実習	トレース法を用いて短対立装具を、

2 1	スプリント製作実習	直接法を用いて手関節用および
2 2	スプリント製作実習	手指用スプリントを製作する。
2 3	まとめ	総合確認
<b>【成績評価方法】</b> 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
<b>【授業の方法・形式と教員紹介】</b> 第14回までは講義中心で、合間に教材の義肢装具に触れてもらう。 第15回以降は実技中心だが、感染症などの状況によって内容を変更することがある。		

## 2024年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : OT治療学(OT総合演習Ⅱ)

担当講師名 : 中村 正行

単 位 : 2 単位 教育時間 : 45 時間

教科書  
(出版社) : なし参考書  
(出版社) :

教育目標【到達目標】:

作業療法ゴールの設定と治療プログラムについて、具体的な症例検討を通じて理解を深める。

## 【講義概要】

グループワークによるケーススタディや、具体的なプログラム立案と治療実施についてを症例検討を通して学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	身障領域の検査・評価法	身障領域における各種検査や評価法の実例を症例問題等を通して学ぶ。
2		
3	症例検討 (身障領域①)	脳血管障害の症例問題を通して症例の障害像等の理解を深めて、治療プログラムの意味を知る。 ※グループワーク
4		
5	症例検討 (身障領域②)	CVA以外の中枢神経障害の症例問題を通して症例の障害像等の理解を深めて、治療プログラムの意味を知る。 ※グループワーク
6		
7	症例検討 (身障領域③)	整形疾患や末梢神経損傷等の症例問題を通して症例の障害像等の理解を深めて、治療プログラムの意味を知る。 ※グループワーク
8		
9	症例検討 (身障領域④)	上記以外の症例問題を通して症例の障害像等の理解を深めて、治療プログラムの意味を知る。 ※グループワーク
10		
11	症例検討 (精神領域)	精神障害の症例問題を通して症例の障害像等の理解を深めて、治療プログラムの意味を知る。 ※グループワーク
12		
13	症例検討 (高齢者領域)	老年期障害の症例問題を通して症例の障害像等の理解を深めて、治療プログラムの意味を知る。 ※グループワーク
14		
15	症例検討 (発達領域)	発達障害の症例問題を通して症例の障害像等の理解を深めて、治療プログラムの意味を知る。 ※グループワーク
16		
17	ADL①	症例問題等を通してADL訓練の理解を深める。 ※グループワーク
18		
19	ADL②	
20		

2 1	福祉用具・義肢装具	症例問題等を通して福祉用具や義肢装具の理解を深める。 ※グループワーク
2 2		
2 3	まとめ	総合確認
<b>【成績評価方法】</b> 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
<b>【授業の方法・形式と教員紹介】</b>  講義、グループワークなど		

## 2024年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : OT治療学(OT総合Ⅱ)

担当講師名 : OT教員(中村)

単 位 : 2 単位 教育時間 : 60 時間

教科書  
(出版社) : なし参考書  
(出版社) : なし

教育目標【到達目標】 : 総合臨床実習の症例対応をもとに、作業療法実施の総合的な理解を深める。

【講義概要】 学生側・教員側それぞれからの問題提起について演習を行う。

各設定場面（領域・病期・治療段階など）における適切な対応について検討する。

各領域の専任教員がオブザーバーとして参加し、より具体的な理解を促す。

回数	項 目	内 容
1	専門基礎演習	各領域における基礎演習
2	専門基礎演習	各領域における基礎演習
3	専門基礎演習	各領域における基礎演習
4	専門基礎演習	各領域における基礎演習
5	専門基礎演習	各領域における基礎演習
6	専門基礎演習	各領域における基礎演習
7	専門基礎演習	各領域における基礎演習
8	専門基礎演習	各領域における基礎演習
9	専門応用演習	総合演習
10	専門応用演習	総合演習
11	専門応用演習	総合演習
12	専門応用演習	総合演習
13	専門応用演習	総合演習
14	専門応用演習	総合演習
15	専門応用演習	総合演習
16	専門応用演習	総合演習
17	専門応用演習	総合演習
18	専門応用演習	総合演習
19	専門基礎演習	各領域における基礎演習
20	専門基礎演習	各領域における基礎演習

2 1	専門基礎演習	各領域における基礎演習
2 2	専門基礎演習	各領域における基礎演習
2 3	専門基礎演習	各領域における基礎演習
2 4	専門基礎演習	各領域における基礎演習
2 5	専門応用演習	総合演習
2 6	専門応用演習	総合演習
2 7	専門応用演習	総合演習
2 8	専門応用演習	総合演習
2 9	まとめ	総合確認テスト
3 0	まとめ	総合確認テスト

**【成績評価方法】** 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

**【授業の方法・形式と教員紹介】** 複数の専任教員(作業療法士/身体・精神・高齢期領域の実務経験)がオブザーバーを務める形式での演習。

各学生が具体的な疑問を持ち寄って活発に意見交換できるように期待する。

## 2024年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : OT治療学(OT総合Ⅲ)

担当講師名 : OT教員(中村)

単 位 : 2 単位 教育時間 : 60 時間

教科書  
(出版社) : なし参考書  
(出版社) : なし

教育目標 【 到達目標 】 : 作業療法の各領域と専門基礎分野の知識を結びつけて理解し、  
EBMを踏まえた作業療法のあり方を学ぶ。

【講義概要】 精神医学と精神科作業療法、生理解剖運動学と身障領域作業療法、

神経内科学と中枢疾患作業療法など、基礎医学と専門作業療法の関わりは非常に深い。

エビデンスを重視した治療プログラムの立案に向けての総合的演習を行なう。

回数	項 目	内 容
1	専門作業療法	各種疾患の主症状とADL障害
2	専門作業療法	各種疾患の主症状とADL障害
3	生理学	ヒトの植物的機能と機能不全による症状の関連について学ぶ
4	生理学	ヒトの植物的機能と機能不全による症状の関連について学ぶ
5	総合演習	身障領域で対象となる疾患や外傷と作業療法治療プログラムについて
6	総合演習	身障領域で対象となる疾患や外傷と作業療法治療プログラムについて
7	総合演習	精神科領域で対象となる疾患と作業療法治療プログラムについて
8	総合演習	精神科領域で対象となる疾患と作業療法治療プログラムについて
9	解剖学	運動器の肉眼解剖を中心に、具体的な疾患や外傷との関連を学ぶ
10	解剖学	内臓・神経の解剖を中心に、具体的な疾患や外傷との関連を学ぶ
11	専門作業療法	精神科作業療法
12	専門作業療法	精神科作業療法
13	専門作業療法	運動器障害の作業療法
14	専門作業療法	運動器障害の作業療法
15	総合演習	身障領域で対象となる疾患や外傷と作業療法治療プログラムについて
16	総合演習	身障領域で対象となる疾患や外傷と作業療法治療プログラムについて
17	総合演習	精神科領域で対象となる疾患と作業療法治療プログラムについて
18	総合演習	精神科領域で対象となる疾患と作業療法治療プログラムについて
19	専門作業療法	運動器障害の作業療法
20	専門作業療法	運動器障害の作業療法

2 1	解剖学	運動器の肉眼解剖を中心に、具体的な疾患や外傷との関連を学ぶ
2 2	解剖学	内臓・神経の解剖を中心に、具体的な疾患や外傷との関連を学ぶ
2 3	専門作業療法	各種疾患の主症状とADL障害
2 4	専門作業療法	各種疾患の主症状とADL障害
2 5	専門作業療法	中枢神経疾患の作業療法とEBM
2 6	専門作業療法	中枢神経疾患の作業療法とEBM
2 7	生理学	ヒトの植物的機能と機能不全による症状の関連について学ぶ
2 8	生理学	ヒトの植物的機能と機能不全による症状の関連について学ぶ
2 9	まとめ	総合確認
3 0	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 複数の専任教員(作業療法士/身体・精神・高齢期領域の実務経験)および基礎医学(生理学・解剖学)の非常勤講師による講義と、専門作業療法演習  
教科書は指定しないが、過去に使用した各種テキストを持参すること。

## 2024年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 3 科 目 名 : 地域OT学(職業関連活動)

担当講師名 : 花宮 豊

単 位 : 2 単 位 教育時間 : 45 時間

教科書 (出版社) : 作業療法学全書第12巻「職業関連活動」等 参考書 (出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 精神障害リハビリテーションにおける「職業関連活動」の概要を理解する

就労支援における作業療法士の役割を理解する

## 【講義概要】

就労継続支援(就労移行支援)の見学・体験を通じ、実際の様子を学ぶ

「ジョブコーチ」について学ぶ

職業評価体験を試みる

回数	項 目	内 容
1	オリエンテーション	授業概説
2	「職業関連活動」の概要	「職業関連活動」概説(就労支援制度、技術)
3	職業関連活動における作業療法	職業関連活動における作業療法の役割、評価
4	障害別就労支援の実際	統合失調症の就労支援
5	就労支援の実際	見学オリエンテーション
6	ジョブコーチ	ジョブコーチ①
7	〃	〃 ②
8	〃 「	〃 ③
9	就労支援の実際	就労支援施設の見学・体験
10	〃	〃
11	〃	見学フィードバック
12	〃	〃
13	〃	発表(レポート提出)
14	〃	〃
15	職業評価体験	職業評価体験準備
16	〃	〃
17	〃	職業評価体験
18	〃	〃
19	〃	評価体験フィードバック
20	〃	〃

2 1	まとめ	総合確認
2 2	〃	〃
2 3	試験	筆記試験
<b>【成績評価方法】</b> 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
<b>【授業の方法・形式と教員紹介】</b>  講義・グループワーク・施設見学など		

## 2024年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 3 科 目 名 : 臨床実習(臨床実習Ⅱ) 担当講師名 : OT 教員(中村)

単 位 : 2 単位 教育時間 : 60 時間

教科書 (出版社) : なし 参考書 (出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 総合臨床実習と関連の強い科目である。実習前評価 (OSCE) ・ 臨地実習 ・

実習後評価 (口述発表) を通じて、作業療法治療の具体的な流れを学び、作業療法の臨床的パラダイムについての理解を高める。

## 【講義概要】

前半は、主にOSCE (客観的臨床能力試験) とその演習から成る。

後半は、総合臨床実習の事例報告書の発表を通じて、総合臨床実習の評価とフィードバックを行う。

回数	項 目	内 容
1	総合臨床実習の全般説明	総合臨床実習の内容・到達目標などを学び、目的を理解する。
2	OSCEの説明	実習前評価 (客観的臨床能力試験) の実施要項についての説明を行う。
3	OSCE演習	各種評価についての演習
4	OSCE演習	各種評価についての演習
5	OSCE演習	各種評価についての演習
6	OSCE演習	各種評価についての演習
7	OSCE演習	各種評価についての演習
8	OSCE演習	各種評価についての演習
9	実習前評価	OSCE①
10	実習前評価	OSCE①
11	OSCE演習	各種評価についての演習
12	実習前評価	OSCE②
13	実習前評価	OSCE②
14	実習前評価	OSCEの個別フィードバックと評価実技
15	実習前評価	OSCEの個別フィードバックと評価実技
16	実習前評価	OSCEの個別フィードバックと評価実技
17	実習オリエンテーション	オリエンテーション・資料配布
18	実習オリエンテーション	オリエンテーション・資料配布
19	実習後評価	総合臨床実習 (第1期) の内容についての口述発表
20	実習後評価	総合臨床実習 (第1期) の内容についての口述発表

2 1	実習後評価	総合臨床実習（第1期）の内容についての口述発表
2 2	実習後評価	総合臨床実習（第1期）の内容についての口述発表
2 3	実習後評価	総合臨床実習（第1期）の内容についての口述発表
2 4	実習後評価	総合臨床実習（第1期）の内容についての口述発表
2 5	実習後評価	総合臨床実習（第2期）の内容についての口述発表
2 6	実習後評価	総合臨床実習（第2期）の内容についての口述発表
2 7	実習後評価	総合臨床実習（第2期）の内容についての口述発表
2 8	実習後評価	総合臨床実習（第2期）の内容についての口述発表
2 9	実習後評価	総合臨床実習（第2期）の内容についての口述発表
3 0	実習後評価	総合臨床実習（第2期）の内容についての口述発表

【成績評価方法】 OSCEの成績と口述発表の内容により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。原則として欠席は認めない。

【授業の方法・形式と教員紹介】

主に演習・OSCE・口述発表から成る。持ち物や服装の指定については担任から事前連絡がある。

この授業では、欠席・遅刻・早退は原則として認めない。必要な時は必ず事前に担任に相談すること。